

鷺見雅次 作 移動壁美術館展



《無存在の存在：聖陽修士（風景）》
2025
板に油彩、木製額に水性塗料など
42cm×36cm×12.2cm(額を含む)



【会期】2025.6.13(金)-2025.6.15(日)
【時間】6.13(金) 15:00-18:00 / 6.14(土) 10:00-17:30 / 6.15(日) 10:00-16:00
※オープン時間が3日間とも異なります。

【会場】みえ県民交流センター（アスト津 3F）

〒514-0009 三重県津市羽所町 700 番地 アスト津 3F



【トーク】6.14(土) 13:30-14:30

鷺見雅次 × 石山佳秀(フリースクール三重シュレ代表) × 松井眞理子(NPO 法人みえ NPO ネットワークセンター代表理事)
進行：松井眞理子

スミマロからスミマサツグに。

美術館の壁ごと名画を引き剥がす？

本名・鷺見雅次(すみ まさつぐ)はこれまで、鷺見鷹(すみ まる)という名で活動していました。模倣や引用する古典絵画の経年変化による汚れやひび割れなども再現する超絶技巧を駆使しながらも、独自に微調整した色調、私的な接点や関心のあるモチーフ、構成要素などが散りばめられた作品を多数、制作してきました。(他にも、書ききれないほど様々なタイプのアート表現を行ってきました。)

今回、本名の鷺見雅次として、新たに制作した、ヤン・ファン・エイクの絵を下絵とした8点からなる連作《無存在の存在》を初発表します。

美術館から壁ごと、名画が引き剥がされてきたかのような「移動壁美術館展」を是非、ご高覧ください。

鷺見雅次 SUMI Masatsugu

1954 年 岐阜県の洞戸村(現在は岐阜県関市)に生まれる。1969 年 洞戸村中学校を卒業ののち、いくつかの職を転々としながら独学で画家を志す。1975 年 名古屋の画廊で「鷺見鷹」として画廊デビュー。その2年後、結婚。82 年に長男、84 年に長女が誕生。妻が教職にあるため、自らは専業主夫を拝名。絵画制作と育児、家事に明け暮れるが、やがて二人の子どもは保育園に入園。四日市市立連合保護者会の会長を引き受け、保育問題や就学前問題に取り組んでいく。90 年代に入るとドイツをはじめ海外でも作品発表の場を拡げるかたわら、次第にハンディキャップを持つ子どもたちとの交流を深めてゆく。絵画制作と同様に育児や社会教育に身を投じることも全く変わりのない表現活動であるとして、2001 年 近鉄四日市駅前商店街(旧東海道沿い)にある古い土蔵と民家を借り、不登校や引きこもり及び障がいを持つ若者たちが共有できる場としてのフリースペース「めだかの学校」を設立し、18 年間活動をする。現在は、四日市市の民生児童委員と人権擁護員の2足のわらじを履きながら、50 年間使用してきた鷺見鷹から本名の「鷺見雅次」で絵と棺桶(額)を制作している。

【共催】認定 NPO 法人 フリースクール三重シュレ / みえ市民活動ボランティアセンター

三重シュレ連絡先 TEL:059-213-1115

Mail:shure@mienoko.com

DM デザイン：石山智央

移動壁美術館展

《無存在の存在：マルガレーテ・ファン・エイクの肖像》

2025/ 板に油彩、木製額に水性塗料など / 37.2cm×26.9cm×12.2cm(額を含む)



鷺見雅次

SUMI Masatsugu

スミマロからスミマサツグに。美術館の壁ごと名画を引き剥がす？

作

【会期】2025.6.13(金)-2025.6.15(日)
【時間】6.13(金) 15:00-18:00 / 6.14(土) 10:00-17:30 / 6.15(日) 10:00-16:00
※オープン時間が3日間とも異なります。

【会場】みえ県民交流センター（アスト津 3F）

【トーク】6.14(土) 13:30-14:30

鷺見雅次 × 石山佳秀(フリースクール三重シュレ代表) × 松井眞理子(NPO 法人みえ NPO ネットワークセンター代表理事)
進行：松井眞理子



《無存在の存在》(部分) 2025

鷲見雅次作「移動壁美術館展」

20数年前、鷲見さんは「フリースペースめだかの学校」を開き、私は「フリースクール三重シュレ」を開いた。それぞれに強いこだわりを持って立ち上げた不登校の子ども・若者が通う県内初のフリースペース、フリースクールである…ここに全く違う生き方をしてきた二人に接点ができた。互いの共通点は 納得できないことに行動を合わせられない点である。

鷲見さんは、その作品にかけるこだわりとエネルギーが常軌を逸している。今回の展示作品は、ヤン・ファン・エイクの作品を引用し、鷲見さん流に描いた8点の油彩画で構成した《無存在の存在》である。今回の連作の中には、原画よりもさらに小さいサイズで描いているものもある。超絶技巧は中学を出て独学で油絵を学び習得したものだ。作品も生き方もストレートで挑戦的だ。

この作品は「己の個性を徹底して抑えて描いた。」と鷲見さんは言う。

《無存在の存在》は、超絶的な技法を用いた宗教画の模倣であっても、鷲見さんが描くのは宗教画ではない。独自の美意識の元に再構築した色調やベタ塗り面の構成、「誰も到達し得ない没頭」の先にある個性に、私はただ、ただ、圧倒される。

今回の会場となるのは「みえ市民活動ボランティアセンター」である。美術館でもギャラリーでもない。

誰もが足を運べるスペースに美術館が出現する？！

鷲見さんは観る人と美術館の壁を取っ払った！

鷲見さんのやることは痛快で面白い！！